

ODIP 4.4 修正パッチ (P1040409006219) リリースノート

2025/3/24

(株) インテリジェント・モデル

ODIP は、(株) インテリジェント・モデル社の登録商標です。

本書に掲載された情報に基づいた行為の結果として発生した損害、利益の損失、経費などについて、(株) インテリジェント・モデルならびに本書の製作関係者は一切の責任を負いません。

本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部を無断で転載・複製することは法律で定められた場合を除き、禁止されています。

目 次

A. 変更内容	4
1. 追加・更新・削除の管理単位でキー項目の値を変更する機能の追加	4
B. パッチ適用による影響	6
C. パッチの適用方法	6
1. ライブラリファイルの更新	6
2. パッチ適用後の確認	7

A. 変更内容

1. 追加・更新・削除の管理単位でキー項目の値を変更する機能の追加

従来、処理モードが追加・更新・削除の管理単位では、更新の条件として出力キー属性に指定された列は更新の対象外となっており、キー項目の値は変更できませんでした。今回の改定では、更新の条件となる出力キー属性の値を、その変更後の値とは別に指定できるようにすることで、キー項目の値を変更する機能を追加しました。主な改定内容は以下のとおりです。

(1) 明細ユーザビュー属性定義ダイアログの改定

ODIP アドミニストレータで、管理単位の処理モードが追加・更新・削除の場合、明細ユーザビューの属性選択ウィンドウから表示する明細ユーザビュー属性定義ダイアログ（下図）に「更新条件属性/条件値」の入力項目を追加しました。出力属性が出力キー属性になっている場合のみ、「更新条件属性/条件値」に更新の条件となる属性名、カテゴリ名、値を指定することができます。「NULL を指定」または「空文字を指定」のチェックボックスを選択することで、NULL または空文字を条件に指定することができます。出力キー属性以外の出力属性に「更新条件属性/条件値」を指定すると、入力時または定義の検査時にエラーとなります。

ユーザビュー属性定義ダイアログ

(2) 明細ユーザビューの属性選択ウィンドウの改定

ODIP アドミニストレータで、管理単位の処理モードが追加・更新・削除の場合、明細ユーザビューの属性選択ウィンドウ（下図）に「更新条件属性/条件値」と「更新条件属性コンポーネント」の表示列を追加しました。「更新条件属性/条件値」には明細ユーザビュー属性定義ダイアログで指定した内容が表示され、「更新条件属性コンポーネント」にはその属性のコンポーネント名（属性以外の場合は空欄）が表示されます。

明細ユーザビューの属性選択ウィンドウ

番号	出力属性	元属性/設定値	コンポーネント	更新条件属性/条件値	更新条件属性コンポーネント	カラムタイプ
1	売場コード	売場コード_変更後	出力前導出演算	売場コード_変更前	出力前導出演算	v
2	商品 JANコード	商品 JANコード	商品テーブル			v
3	商品名	商品名	商品テーブル			v
4	単品コード	単品コード_変更後	出力前導出演算	単品コード_変更前	出力前導出演算	v
5	単品名	単品名	単品テーブル			v
6	標準単価	標準単価	商品テーブル			p
7	型コード	型コード	単品テーブル			v
8	色コード	色コード	単品テーブル			v
9	サイズコード	サイズコード	単品テーブル			v
10	売上数量計	売上数量計	売上計数算出			p
11	売上金額計	売上金額計	売上計数算出			p
12	売上消費税	売上消費税	売上計数算出			p

(3) トランスフォーマエンジンの改定

処理モードが追加・更新・削除の管理単位を実行する際に発行する SQL 文について以下の改定を行いました。

- ① 更新モードが更新 (U) または削除 (D) の場合、「更新条件属性/条件値」に指定があれば、UPDATE 文/ DELETE 文の WHERE 句の等価条件式にその値が設定されます。
- ② 更新モードが追加更新 (CU) で、ODIP で MERGE 文が有効な DBMS の場合、「更新条件属性/条件値」に指定があれば、MERGE 文の ON 句の等価条件式にその値が設定されます。ただし、MERGE 文の動作は DBMS によって異なり、Oracle の場合は、ON 句で条件指定した列に SET 句で値を設定すると構文エラーになります。

(4) その他の改定

- ① ODIP アドミニストレータから定義内容を入力するリッチテキストファイルに、処理モードが追加・更新・削除の管理単位の出力属性の表に「更新条件属性/条件値」と「更新条件属性コンポーネント」を追加しました。

- ② ODIP アドミニストレータの参照表示の対象に、「更新条件属性/条件値」を追加しました。
- ③ ODIP アドミニストレータ、ODIP リポジトリ・マネージャの変更点表示の対象に「更新条件属性/条件値」を追加しました。

B. パッチ適用による影響

既存の定義への影響はありません。

C. パッチの適用方法

本パッチは、次の ODIP 製品に適用してください。

- ☐ ODIP アドミニストレータ v4.4
- ☐ ODIP オペレーションマネージャ v4.4
- ☐ ODIP リポジトリマネージャ v4.4
- ☐ ODIP プロセスマネージャ v4.4
- ☐ ODIP リポジトリサーバ v4.4
- ☐ ODIP トランスフォーマ v4.4

1. ライブラリファイルの更新

実行中の ODIP 製品を終了し、ODIP_P1040409006219 フォルダに格納されているライブラリファイルを、表 1 のファイルのコピー先に上書きコピーしてください。

表 1 ODIP_P1040409006219 のフォルダ構成及びファイルのコピー先

ODIP_P1040409006219		ファイルのコピー先
	lib	
	ADM	ODIP アドミニストレータの lib フォルダ
	OPE	ODIP オペレーションマネージャの lib フォルダ
	RPM	ODIP リポジトリマネージャの lib フォルダ
	RPS	ODIP リポジトリサーバの lib フォルダ
	TFM	ODIP トランスフォーマの lib フォルダ

2. パッチ適用後の確認

パッチ適用後は、各製品を起動し、表 2 の確認方法に従って確認を行ってください。

表 2 パッチ適用後の確認方法

製品名	確認方法
ODIP アドミニストレータ	ヘルプメニューから“ODIP について”を選択し、表示されたすべてのビルド ID が 1040409006219 であることを確認してください。
ODIP オペレーションマネージャ	
ODIP リポジトリマネージャ	
ODIP プロセスマネージャ	
ODIP リポジトリサーバ	ODIP リポジトリマネージャのツールメニューから“ORMS サーバ情報”を選択し、“バージョン情報”タブを開き、表示されたすべてのビルド ID が 1040409006219 であることを確認してください。
ODIP トランスフォーマ	ODIP トランスフォーマを起動し、showserver コマンドを、オプションに“-info version”を指定して実行してください。表示されたすべてのビルド ID が 1040409006219 であることを確認してください。

以 上